

雪氷写真館 20



写真 1. ガンリンチェンゼー峠北方の無名氷河 . (1984 年 10 月)



写真 2. 同上 . (1998 年 10 月)

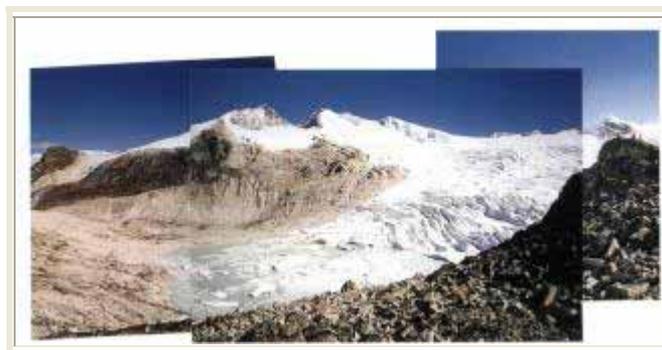


写真 3. 同上 . (1999 年 10 月)

ブータン・ヒマラヤの氷河縮小

ヒマラヤ山脈の東部，ブータン・ヒマラヤにおいて氷河の縮小と氷河湖の拡大 が心配されている．写真はブータン北部ルナナ地方の，ガンリンチェンゼーという標高約 5280m の峠のすぐ北方にある氷河である．写真 1 は，1984 年に同地 域を訪れた京大山岳部ブータン・ヒマラヤ偵察隊によって撮影された（同隊員，月原敏博氏提供）．写真 2 と 3 は，1998 年と 1999 年(*) の秋に同地点より撮影した同氷河の写真である．

1984～1998年に氷河末端の後退および氷河湖の拡大が顕著である。氷河末端位置の後退量は14年間に300～350m程度(平均21～25m/年)で、ネパール・ヒマラヤで観測されている氷河と比較しても相当に速い(内藤, 2001, 表2参照)。さらに1999年までの1年間にも末端の後退は50m程度進行している。特に氷河上のクレバスの様子から、氷河の下流部が急激に崩壊しかねない不安定な状態にあるようにも推察される。

この氷河の他にも、ブータン・ヒマラヤにおいて多数の氷河で縮小例を把握しつつある。ブータンはヒマラヤ地域の中でもモンスーンの影響が大きいと考えられる。そのためネパール・ヒマラヤの氷河よりも温暖化に対する氷河縮小がさらに急激に進行する可能性がある(藤田, 2001; 内藤, 2001 参照)。今後も注意深く観察を続けていく必要があるだろう。

なお氷河上流部の平坦部の彼方に見えている平頂形の山の右端は、ブータン・ヒマラヤの最高峰ガンカー・プンスム(7541m)の山頂である。

(*):1999年度井上フィールド科学研究基金助成研究

参考文献

藤田耕史, 2001: アジア高山域における氷河質量収支の特徴と気候変化への応答. 雪氷, 63, 171-179.

内藤 望, 2001: ネパール・ヒマラヤにおける近年の氷河縮小. 雪氷, 63, 207-221.

内藤 望 会員 (名古屋大学大気水圏科学研究所)